



未来の博士フェス 2025

～知の挑戦者たちへ — 未来を拓く博士の力～



日時

2025.9.4Thu
10:00-18:00(開場 9:30)

会場

一橋大学一橋講堂

主催



文部科学省

共催



科学を支え、未来へつなぐ
科学技術振興機構

未来の博士フェス 2025

～知の挑戦者たちへ ー未来を拓く博士の力ー～



プログラム

午前の部 10:00～12:00

- 10:00 文部科学省挨拶
- 10:05 科学技術振興機構理事長挨拶
- 10:10 来賓挨拶
- 10:45 博士課程学生によるショートプレゼンテーション

午後の部 13:15～18:00

- 13:15 博士を大事にする企業ピッチコンテスト
- 14:00 パネルディスカッション
- 15:45 ポスターセッション
(学生ポスター デモ展示/ 企業ブース展示)
- 17:35 閉会セッション(閉会挨拶/写真撮影)

開催概要

科学技術イノベーションによって社会課題を解決し、持続可能な未来を切り拓く鍵を握るのは、創造力と高度な専門性を備えた「博士人材」です。

今年で3回目となる「未来の博士フェス」は、企業と協力して、博士課程学生を応援するイベントです。

産業界、アカデミア、官公庁など多様な立場から、博士人材の価値と可能性を共有・発信し、共にその活躍の場を広げていきます。

当日は、博士課程学生によるショートプレゼンテーションに加え、博士人材の多様なキャリアや活躍の可能性を探るパネルディスカッション、「博士を大切にする企業」によるピッチコンテスト、そして学生と企業が直接交流できるポスターセッション・企業ブースなど、多彩なプログラムを展開します。

博士人材と企業・社会の出会いが、新たな価値を生み出します。その瞬間に、ぜひお立ち会いください。

文部科学省 挨拶



西條 正明

文部科学省科学技術・学術政策局長

「未来の博士フェス 2025 ～知の挑戦者たちへー未来を拓く博士の力～」にご参加いただきありがとうございます。本イベントは、博士の活躍を応援する皆様のお力添えにより、今回で3度目の開催を迎えることができました。

今後、益々複雑化・多様化する社会の中で、深い専門知識や汎用的能力を持ち、社会全体の成長・発展を牽引することができる博士人材の存在は、より一層重要なものとなっていくでしょう。文部科学省としても、未来を自ら創り上げる優秀な博士人材を増やし、多方面で活躍できるよう強く後押ししてまいります。

本日のイベントが、ご参加の皆様にとって実り多い機会となるとともに、博士人材がより多様なフィールドでの活躍の可能性を広げるための有意義な場となることを心より願っております。

ショートプレゼンテーション

登壇学生一覧

- | | | | |
|----------|---------------|------------|-----------|
| 1. 阿部 未来 | 横浜国立大学 | 国際社会科学府 | 博士後期課程 2年 |
| 2. 井上 萌来 | 立命館大学 | 理工学研究科 | 博士後期課程 1年 |
| 3. 沓掛 丈 | 東京都立大学 | 理学研究科 | 博士後期課程 2年 |
| 4. 下茂 梨乃 | 金沢大学 | 自然科学研究科 | 博士後期課程 3年 |
| 5. 永易 将弘 | 奈良先端科学技術大学院大学 | 先端科学技術研究科 | 博士後期課程 2年 |
| 6. 比嘉 南斗 | 山口大学 | 大学院創成科学研究科 | 博士後期課程 3年 |

コメンテーター



小倉 里江子 横浜バイオテクノロジー株式会社 取締役研究開発 部長

2009年、横浜国立大学にて博士(環境学)取得。専門は植物遺伝子工学・植物病理学。2014年「科学と社会を繋ぐ仕組み」を目指し、大学発ベンチャー横浜バイオテクノロジー株式会社の設立に参画。2019年、横浜ビジネスグランプリ最優秀賞受賞。現在は多様なパートナーと協働し、新たな価値創出に取り組む。



笠原 博徳 早稲田大学 理工学術院 基幹理工学部 教授
JST 博士後期課程学生支援事業委員会 (SPRING/BOOST) 委員長

1985年早稲田大学博士課程修了(工学博士)、カリフォルニア大学バークレー校訪問学者、学振第一回PD特別研究員、1986年早稲田大学専任講師、1988年助教授、1997年教授。1989-1990年イリノイ大学スーパーコンピューティング研究開発センター(CSRD)訪問学者、2018年IEEE Computer Society北米以外から初の会長、2018-22年早稲田大学副総長、2023年SPRING委員長。IFAC World Congress 1987第一回Young Author Prize、IEEE Life Fellow、科学技術分野の文部科学大臣表彰、情報処理学会功績賞等受賞。



川太 規之 QBキャピタル合同会社 インベストメントマネージャー

東京工業大学 修士(生化学)修了後、メーカーでエンジニアをする中、「技術の社会実装の側面支援」を職業人としての軸として見出し、働きながら、名古屋工業大学でMOT(技術経営)の修士と博士を取得。その後、コンサルを経てベンチャーキャピタルに参画し、創業前の大学プロジェクトのマネジメントや起業後のスタートアップへの投資とハンズオン支援を行う。



對崎 真楠 文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域振興課 課長補佐

博士(農学)取得後、2012年文部科学省入省。宇宙開発利用、環境エネルギー、量子科学技術の研究開発推進や博士人材育成政策に従事(初回「未来の博士フェス2023」の企画・開催)。この間、米国ジョージワシントン大学宇宙政策研究所客員研究員を歴任。現在はスタートアップ創出や地域産学連携政策に従事。



津坂 優子 神戸大学大学院 博士支援推進室 特命教授

神戸大学にて博士(工学)取得。パナソニック株式会社に情報・AI・ロボティクスに関する研究開発に従事。プロジェクト・マネジメントや人材育成なども担当。2021年より現職。13大学で連携して博士人材の育成に取り組む博士人材育成コンシウムに専門委員として参画。博士人材の育成・キャリア支援及びSPRING事業の企画・運営を担当。

パネルディスカッション 課題を見抜き、未来を拓く～博士人材が社会を動かす～

パネリスト



天野 麻穂
HILO株式会社 代表取締役社長

東京大学大学院修了、博士(農学)。海外PD、私大専任講師等の研究・教育生活を経て北海道大学URA。大学の戦略策定や研究推進に従事する中で、支援シーズの起業を決意。同大学院医学研究院に異動後、2021年のHILO株式会社設立に際しては、北大初の社長兼業正規教員となった。2025年より同客員教授。



馬場 翔太郎
大和証券株式会社
アソシエイトディレクター

東京大学工学系研究科物理工学専攻で博士(工学)を取得。専攻は量子熱力学・統計物理の理論的研究。博士課程で培った数理モデリング能力を強みに大和証券株式会でデータサイエンティストとして活動。経済分析や商品開発・金融市場における投資戦略の立案など幅広い課題解決に取り組み、国内外の投資家へ貢献。



伊勢田 一也
旭化成株式会社 マネージャー

博士(理学)。2014年旭化成株式会社入社後、研究開発、採用(技術系新卒)、監査役専任スタッフ、コーポレートR&Dの戦略企画を経て、現在は当社主力事業のひとつであるセパレータ事業の技術開発推進プロジェクトを牽引。大学での講演や産学連携の外部委員等を通じ、産学官連携の活動にも積極的に従事。



山田 諒
株式会社アカリク 代表取締役

社員研修や人材育成、転職・就職支援等、HR経歴10年以上。前職ではITエンジニアに特化した人材紹介事業を立ち上げ、100名規模に成長。自身は事業部長として新卒・転職エージェントとヘッドハンティング領域を管轄。2021年4月より現職。令和6年度「博士人材の民間企業における活躍促進に向けた検討会」委員。



清水 由賀
国際労働機関 本部
パートナーシップ担当官
Junior Professional Officer in
Partnerships, International
Labour Organization

早稲田大学社会科学部研究科博士後期課程修了、社会科学博士。早稲田大学地域・地域間研究機構研究助手、東北福祉大学常勤講師(社会保障ほか)、東北福祉大学国際交流センター主任、AAR Japanミャンマー・ヤンゴン事務所駐在員を経て、外務省JPO制度を通して2024年より現職。



米澤 恵一郎
九州工業大学 研究戦略URA

千葉大学で博士(理学)を取得。学振DC2の切替で学振PDとして分子科学研究所で研究に従事したのち九州工業大学でURAとしての活動を開始。学術研究の伴走支援からディープテックの社会実装を目指す産学連携、スタートアップ創出・成長までを一気通貫で推進するとともに、副理事の立場で全学的な研究経営も実施中。

ファシリテーター



立木 茂朗 文部科学省 高等教育局大学振興課 大学院係 係長

2022年に総合研究大学院大学 物理科学研究科 天文科学専攻を修了(博士(理学))。同年文部科学省に入省し、研究開発局宇宙開発利用課、科学技術・学術政策局政策課を経て2025年4月より現職。多様なフィールドで博士人材が活躍する社会の実現を目指し、大学院教育に関する政策の企画、立案及び推進を行っている。

博士を大事にする企業ピッチコンテスト

企画概要

本コンテストでは、企業様より自社においていかに博士人材を大事にしているのか、博士人材の採用状況や配置、社内での人材育成、処遇などの取り組みを3分間でPRしていただきます。

登壇企業のスピーチを聞いていただき、どの企業が最も博士人材を大事にしていると感じたか、下記QRコードより投票をお願いいたします。

なお、本企画において、投票できるのは会場参加されている学生（学部生・博士前期課程学生・博士後期課程学生）に限定させていただきます。

投票QRコード

（サイト掲載省略）

ポスター発表学生一覧

D: 博士後期課程 数字: 学年

番号	大学名	所属	学年	氏名	研究テーマ
1	室蘭工業大学	工学研究科	D1	小笠原 日向子	PVシステム火災の延焼予測と消火手法に関する研究
2	室蘭工業大学	工学研究科	D2	張 恒	アコヤガイ貝殻真珠層中の成分による糖尿病改善作用とそのメカニズムの解明
3	弘前大学	医学研究科	D3	田中 誠	多系統萎縮症モデルマウスを用いた治療薬の開発
4	弘前大学	理工学研究科	D2	村上 辰成	対アニオンの可逆的な配位を駆動力とする揮発性有機化合物センシング材料の合成
5	東北大学	法学研究科	D1	褚 艶楠	情報技術を活用したADRの現状と課題
6	東北大学	農学研究科	D3	廣住 燎亮	(±)-Mauritamide B の全合成および構造改訂
7	秋田大学	国際資源学研究科	D2	氏居 綾香	GX時代の水資源管理の在り方
8	秋田大学	国際資源学研究科	D3	Barry Majeed Hartono	Study on the co-occurrence of typical-atypical petroleum systems in island arc settings based on organic geochemistry and basin modeling approaches
9	山形大学	有機材料システム研究科	D1	蓮見 翔	分子配向性と溶解性を両立した有機半導体材料の開発
10	山形大学	有機材料システム研究科	D2	吉田 晃	ゲル繊維を用いたホモコンポジットゲルによる軟骨構造の模倣
11	茨城大学	理工学研究科	D2	坪松 秀紀	地表面鉱物の高効率・高精度マッピングに関する研究
12	筑波大学	理工情報生命術院システム情報工学研究群エンバウメント情報学プログラム	D2	石井 智也	歩行者のカメラ装着体に対する振る舞いからカメラ装着体を認識しているかどうかを推定する研究
13	筑波大学	人間総合科学術院人間総合科学研究群医学学位プログラム	D1	岡村 ケエクシャーン	A型インフルエンザウイルス感染時におけるマクロファージの細菌貪食能低下とその分子機序の解明
14	自治医科大学	医学研究科	D3	劉 嘉瑩	構造情報に基づいたベースメーカーチャネルの電位依存的ゲーティング調節機構の解明
15	千葉大学	融合理工学府	D2	坂井 みずき	タンパク質の中性子結晶構造解析
16	千葉大学	融合理工学府	D1	山田 藍樹	連合学習による複数施設のデータを用いたコンピュータ支援検出／診断の学習戦略に関する検討
17	東京大学	医学系研究科	D1	江南 沙里菜	急性期医療における高齢患者への意思決定支援
18	東京大学	教育学研究科	D2	高橋 幸太郎	全学力層の子どもが深く理解できる授業を目指して
19	東京外国語大学	総合国際学研究科	D2	大竹 美由紀	中国のスマート高齢者ケアがもたらす家族倫理の再編:誰のための介護支援技術か？
20	東京農工大学	工学府	D2	渡辺 綾乃	流れの不安定周波数変動に応じて変調させた制御入力による翼周流れの剥離抑制
21	電気通信大学	情報理工学研究科	D2	田中 義規	対話システムを活用したユーザレビュー作成支援に関する研究
22	電気通信大学	情報理工学研究科	D3	中田 翼	情報技術を活用した高齢者や障害者のWell-Beingの向上
23	一橋大学	社会学研究科	D2	奥山 智天	「小さな幸せ」が精神的健康に与える影響:理想感情に着目して
24	一橋大学	経営管理研究科	D3	杉田 恭将	アメリカン・プット・オプションの高精度数値計算手法の開発
25	東京海洋大学	海洋科学技術研究科	D2	松本 凌	ヒザラガイ類が藻類にもたらす海洋酸性化の間接効果
26	東京科学大学(理工学系)	工学院電気電子系	D1	國分 涼	マルチモードリラクタンスモータ(MRM)に関する基礎研究
27	東京科学大学(理工学系)	理学院化学系	D3	成田 直生	生理活性フラバンオリゴマー類の合成研究
28	東京科学大学(医歯学系)	医歯学総合研究科	D2	原田 健太郎	乳酸によるMechano-Immunity制御性代謝機構の解明
29	東京都立大学	システムデザイン研究科	D1	佐藤 廉	線維化の治療抑制のための光デバイスの開発
30	慶應義塾大学	経済学研究科	D1	本多 将大	Shrinkflation を対象とした消費者行動分析
31	慶應義塾大学	理工学研究科	D1	山形 智咲	ハイドロゲル製マイクロウェルアレイによる単一細胞由来エクソソームの網羅的解析
32	上智大学	実践宗教学研究科	D3	岸根 紗葵	ファッションに現れる<文化的スピリチュアリティ>の探求―死・身体・生を手がかりに
33	中央大学	文学研究科	D3	倉野 靖之	近現代パレスチナにおける政治活動と治安維持政策
34	東海大学	文学研究科	D1	守屋 朋龍	都市近郊地域におけるソーシャル・キャピタル醸成の可能性 ～エスノグラフィー手法を用いた研究～
35	東京電機大学	先端科学技術研究科	D2	山崎 智史	円筒内壁に衝突する放射状に広がる不足膨張噴流の圧力変動と振動メカニズムに関する研究
36	東京農業大学	地域環境科学研究所	D1	佐々木 綾香	生育基盤中の石礫が植栽木の根系強度に与える影響についての研究
37	東京農業大学	生命科学研究所	D3	須田 和奏	遺伝学及び遺伝情報学的アプローチによる納豆菌諸形質の研究
38	東京薬科大学	薬学研究科	D3	村野 周子アンバー	SARS-CoV-2 に重要な酵素3CLプロテアーゼを光酸化化によって不活化する機能性分子の開発
39	東京薬科大学	薬学研究科	D3	山口 泰暉	超音波とナノバブルを利用した遺伝子・核酸送達システムの構築とがん治療への応用
40	東京理科大学	薬学研究科	D2	三瓶 千怜	テリパラチド標的GPCRの探索とその骨芽細胞における機能解明

ポスター発表学生一覧

D: 博士後期課程 数字: 学年

番号	大学名	所属	学年	氏名	研究テーマ
41	東京理科大学	先進工学研究科	D2	陣内 響子	左右非対称な脳機能の細胞生物学的な理解
42	東洋大学	文学研究科	D3	沖原 花音	障がい者の「負の経験」を断ち切る環境デザインの可能性に関する現象学的解明
43	早稲田大学	先進理工学研究科	D3	丹野 祐次郎	将来系統におけるコネクト&マネージの高度化に関する研究
44	早稲田大学	先進理工学研究科	D2	西村 美郁	高感度な細菌シングルセルRNA-seq技術開発によるバイオフィームにおける細菌集団不均一性の解明
45	横浜国立大学	国際社会科学府	D2	阿部 未来	気象制御技術の研究開発およびその社会実装に関わる倫理的・法的・社会的課題(ELSI)の検討
46	横浜国立大学	理工学府	D2	坂口 大門	電子状態インフォマティクスによる化学反応の選択性の起源の解明
47	横浜国立大学	国際マネジメント研究科	D2	高橋 淳	親の性別選好が子どもに対する教育投資や最終学歴希望に与える影響
48	横浜国立大学	生命医科学研究科	D2	保科 隼佑	パーキンソン病モデル細胞におけるタンパク質の翻訳後修飾異常の探索
49	新潟大学	自然科学研究科	D3	土田 駿	遷移金属カルコゲナイド化合物における圧力および元素置換による新規物性の探索
50	富山大学	総合医薬学研究科	D2	市川 大貴	光でがんを治療する光線力学療法(PDT)に応用可能なロタキサン型光増感剤の創成
51	富山大学	理工学研究科	D2	仲村 光生	バイオコンジュゲーションによるタンパク質の機能制御に関する検討
52	富山県立大学	工学研究科	D2	岡本 侑樹	FRET現象を活用した活性型ビタミンD3の可視化と作用機序解明に向けた革新的研究
53	金沢大学	自然科学研究科	D3	下茂 梨乃	細菌オルガネラマグネトソームの配置機構に関する研究
54	金沢大学	自然科学研究科	D2	中村 優真	円柱周りに流れのリザーバー計算のClosedLoop 化
55	北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	D2	大平 尚輝	合成開口レーダを用いた三次元土砂量の推定技術の開発
56	北陸先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	D3	柳山 鏡	酸素還元反応用電極触媒の開発を目的としたハイスループット実験法の開発
57	福井大学	工学研究科	D3	前野 美久	バイオ電池用素子への応用に向けた超好熱菌由来酵素の機能改変
58	山梨大学	医工農学総合教育部	D1	笠井 翔太	骨ノミを用いたVR手術訓練シミュレータの開発
59	山梨大学	医工農学総合教育部	D1	木村 龍生	山地部水源を考慮した御勅使川扇状地における広域地下水流動の把握
60	信州大学	総合医理工学研究科	D1	鈴木 空	創薬不可能な疾患関連タンパク質に対する新薬探索技術の確立
61	岐阜薬科大学	薬学研究科	D2	櫻田 直也	省エネルギー型連続合成法の開発
62	岐阜薬科大学	薬学研究科	D2	高木 勇弥	緑内障における線維化病態の解明
63	静岡大学	光医工学研究科	D3	竹尾 沙優里	アルケン型ペプチド結合等価体を導入したRGGペプチドミメティックの細胞膜透過性評価
64	名古屋大学	教育発達科学研究科	D1	浅川 芽衣	自殺念慮を抱える人々の援助希求を阻む要因の理解と支援の可能性
65	名古屋大学	医学系研究科	D2	磯貝 美結	妊娠期ビタミンD欠乏が次世代に及ぼす影響
66	名古屋大学	人文学研究科	D1	鈴木 泉喜	発達障害者と定型発達者の共生社会の創成:『複数の世界』からまなざす文化人類学的研究
67	豊橋技術科学大学	工学研究科	D1	岡口 友哉	不確実な知覚意思決定における自信度の神経表現
68	名古屋市立大学	理学研究科	D3	高野 佑基	ヒドロキシル尿素は出芽酵母小胞体におけるチオール・ジスルフィド恒常性を調節する
69	名古屋市立大学	薬学研究科	D2	向井中 玲菜	皮膚常在細菌の分泌物によるアレルギー疾患抑制機構の解明
70	藤田医科大学	医学研究科	D1	神谷 侑里	妊娠前の低濃度メチル水銀曝露による次世代の中枢神経系へ及ぼす影響の解明
71	藤田医科大学	医療科学研究科	D2	坂田 昂駿	ストレスによる報酬性食習慣の変容がうつ病病態に及ぼす影響の解明
72	三重大学	工学研究科	D3	福田 燦太	脳皮質内刺激型視覚補綴のための至適神経駆動条件の生理学的および計算論的探究
73	三重大学	生物資源研究科	D3	股村 真也	黒毛和種のデンプン消化率推定および深層学習を用いた糞中デンプンの定量方法の検討
74	京都大学	農学研究科	D3	片所 杏野	腸内細菌における網羅的なウロリチン脱水酸化酵素の特定と機能解析
75	京都大学	医学研究科	D3	岸本 拓実	筋疾患病態解明
76	京都大学	医学研究科	D2	松山 きらら	自己免疫疾患患者のヘルスリテラシーがセルフマネジメントおよび疾患コントロールに与える影響の解明
77	京都工芸繊維大学	工芸科学研究科	D2	慊本 明和	セルロース系資源を基盤とした持続可能な高分子材料の開発
78	京都工芸繊維大学	工芸科学研究科	D2	杉本 良介	遷移金属置換型ペロブスカイト酸化物の環境触媒能
79	京都府立医科大学	医学研究科	D4	藤田 雄	認知症の人の意思決定支援の開発と、本人と家族が離れて暮らしていても安心して生活できるサービスの開発

ポスター発表学生一覧

D: 博士後期課程 数字: 学年

番号	大学名	所属	学年	氏名	研究テーマ
80	同志社大学	生命医科学研究科	D3	池上 葵	慢性骨髄性白血病の新規ペプチド治療薬の開発
81	同志社大学	スポーツ健康科学研究科	D2	戸澤 博之進	筋活動の至適方向における可塑性の検討
82	立命館大学	理工学研究科	D1	井上 萌来	データ呼応型都市空間プラットフォームの構築と住民参加型まちづくりにおける合意形成
83	立命館大学	情報理工学研究科	D3	山本 良輔	深層生成モデルのマルチモーダル化による自然言語・実世界情報の構造化と統合 / 構文と意味の統合を基盤としたLLMによる創造的言語使用の探求
84	大阪大学	生命機能研究科	D4	鶴野 耀子	哺乳類の性決定におけるエピジェネティック制御機構の解明
85	大阪大学	連合小児発達学研究科	D3	玉井 駿也	小児期における協調運動機能とMRI 特徴との関連
86	大阪大学	情報科学研究科	D2	米倉 晴紀	WiFi Round Trip Timeを活用した屋内環境センシング
87	大阪公立大学	工学研究科	D2	梅田 尋慈	大規模アンサンブル台風予測データを用いた将来の越波浸水予測
88	大阪公立大学	生活科学研究科	D2	DAI QIYUN	全身性エリテマトーデス患者におけるサルコペニアと生活習慣との関連調査
89	関西大学	理工学研究科	D2	豊岡 祥太	任意の空間で消音可能なウェアレスアクティブノイズコントロールに関する研究
90	近畿大学	生物理工学研究科	D2	網 優太	大豆由来難消化性ペプチドがヒト腸内細菌に与える影響の解析
91	近畿大学	農学研究科	D2	倉田 大地	花の模様形成メカニズムの解明
92	神戸大学	保健学研究科	D3	今井 万貴	虚血性心疾患患者のillness perceptionに関する研究
93	神戸大学	理学研究科	D2	西村 拓真	機械学習を活用した光触媒活性の予測と材料理解
94	兵庫県立大学	工学研究科	D3	前田 涼汰	計算照明を鍵とする実世界光伝搬の解析
95	甲南大学	文学研究科	D2	李 匯岬	エスニシティの差異の研究の動向とこれからの課題
96	奈良女子大学	人間文化総合科学研究科	D2	小杉 夏実	エストロゲンによる快楽性摂取調節を介した甘味摂取亢進メカニズムの解明
97	奈良女子大学	人間文化総合科学研究科	D3	原 直子	ダム下流土砂還元による河床環境・底生動物群集に対する継続的な効果～ダム下流域で生じる問題をどう緩和できるか？～
98	奈良先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	D2	永易 将弘	イネ免疫受容体を介した共生制御メカニズムの解明
99	奈良先端科学技術大学院大学	先端科学技術研究科	D2	日垣 輝大	不等間隔なサンプリングによるライトフィールド計測
100	鳥取大学	連合農学研究科	D3	Abebe Meseret Gutema	Enhancing Quinoa's Acclimation Potential and Stress Adaptability in Sandy Soil
101	島根大学	医学系研究科	D3	ZHUOMA CAIRANG	視床下部に関するキスペプチンニューロンの制御機構の解明
102	岡山大学	社会文化科学研究科	D2	白石 奈津栄	生涯学習を活用した中高年のためのサクセスフル・エイジング
103	広島大学	医系科学研究科	D3	石原 萌香	ダンサー・審美系アスリートのリスフラン関節動態評価と足部障害発生メカニズムの解明
104	広島大学	統合生命科学研究科	D2	米澤 奏良	生命科学の公共データベースに蓄積されているデータを活用した新規熱ストレス応答遺伝子の探索
105	山口大学	大学院創成科学研究科	D3	比嘉 南斗	次世代淡水化技術としての圧透析モザイク荷電膜
106	徳島大学	創成科学研究科	D2	前川 泰輝	カチオン比制御を通じたLaTiO2Nインバースオパール光触媒に関する光学および光触媒特性の解明
107	香川大学	創発科学研究科	D2	日野田 圭祐	納得化リスクコミュニケーションによる持続可能な地域防災の検討
108	愛媛大学	理工学研究科	D2	岡本 悠	高度集積システムのライフサイクル信頼性強化技術に関する研究
109	高知大学	総合人間自然科学研究科	D2	内田 泰蔵	磁気顕微鏡を用いた、断層岩の岩石磁気特性の解明
110	九州工業大学	工学府	D2	木原 成海	4次元データを用いた顔の対称性解析法の開発
111	九州工業大学	情報工学府	D2	林田 幸久	新規細胞巨大化法による1細胞内シグナル伝達機構の解明
112	九州大学	工学府	D2	佐々木 海斗	ビタミンB12の自己増感作用を活用した有機塩素化合物からのアミド化合物変換
113	九州大学	人間環境学府	D2	Wang Zivi	中国の事例に基づく資源枯渇都市のグリーン転換効率に影響を与える要因の分析・都市システム構成分析とPLS-SEM手法を統合した枠組み
114	北九州市立大学	国際環境工学研究科	D3	袁 博子	ソロモン諸島の中等学校における廃棄物管理教育の導入：対照群と介入群の比較実験
115	長崎大学	工学研究科	D1	横尾 拓哉	平面有機ホウ素化合物を有する新規ルテニウム(II)錯体の合成と二酸化炭素光還元反応
116	熊本大学	薬学教育部	D2	鏡 明日香	アミロイドーシスに対するザクロ葉・枝由来アミロイドプレカーの同定と有用性評価
117	熊本大学	自然科学教育部	D2	立石 優輔	電子状態情報を活用した医薬品の活性予測・新規探索
118	鹿屋体育大学	体育学研究科	D1	田中 響	バレーボールのレセプションアタックおよびディグアタックにおけるコンビネーション攻撃の成否に関わる要因の検討

ポスター発表学生一覧(デモンストレーション実施)

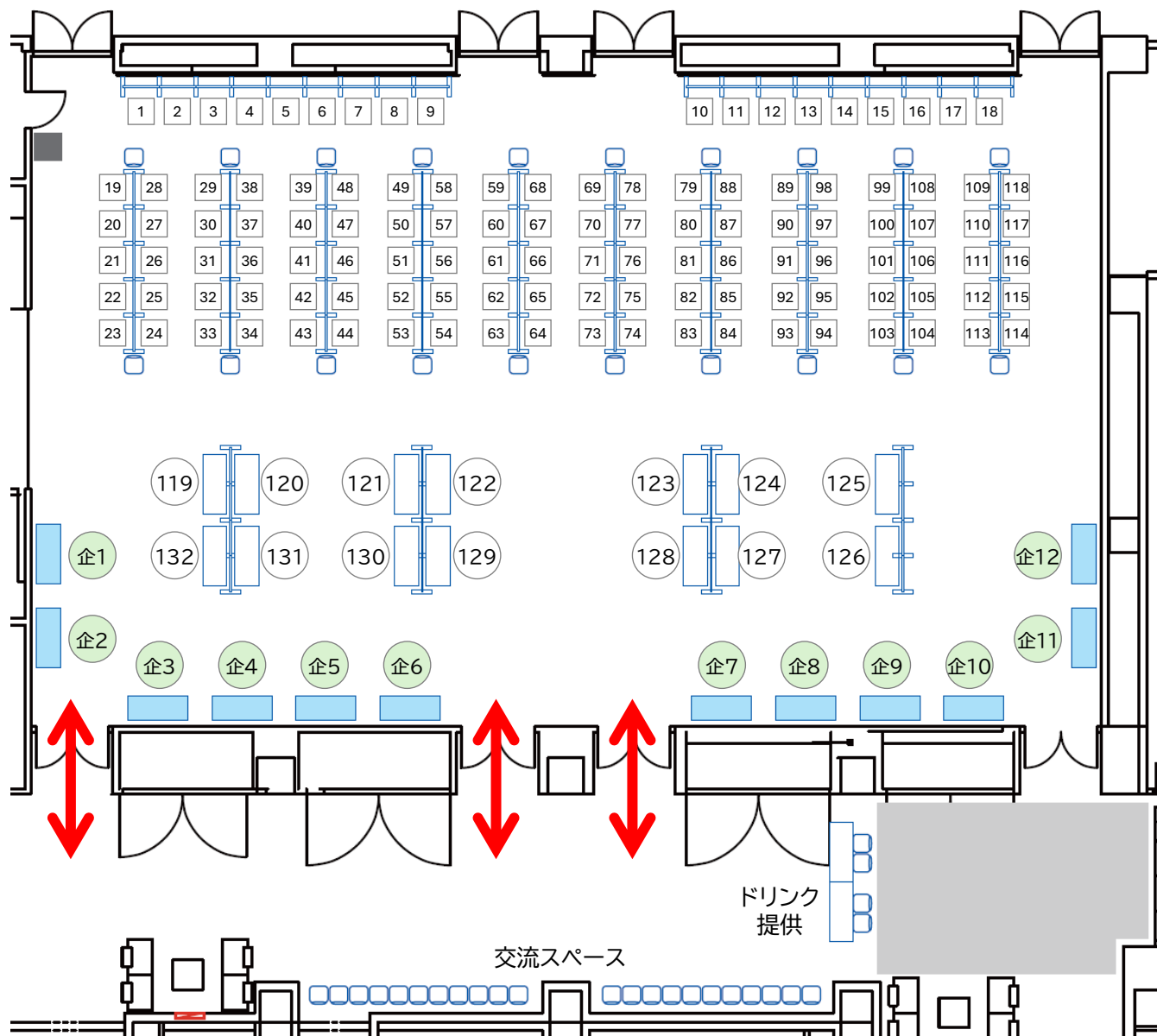
D: 博士後期課程 数字: 学年

番号	大学名	所属	学年	氏名	研究テーマ
119	北海道大学	医学院	D4	遠田 建	人工知能を用いた脳腫瘍病理診断に関する研究
120	北海道大学	文学院	D2	数納 風香	現代日本語の社会語用論的分析を通じた「品行」の言語コミュニケーション研究
121	北海道大学	総合化学院	D1	出村 萌々香	ジシアンジアミドを用いた金属窒化物の大気化合成
122	筑波大学	理工情報生命学術院数理物質科学研究群物理学学位プログラム	D1	山口 未沙	銀河衝突シミュレーションで切り拓く次世代のGalactic Habitable Zone研究
123	東京大学	新領域創成科学研究科	D1	舟引 美咲	SDGsを志向する企業におけるESDプログラム開発および参加者間の相互変容の研究
124	東京農工大学	生物システム応用科学府	D1	山本 雄大	球技スポーツにおける靱帯の弾性特性の機能的意義の解明
125	東京都立大学	理学研究科	D2	沓掛 丈	未開拓分類群「コムカデ」の「どこでもドア」をAI融合手法で一挙に解明する
126	芝浦工業大学	理工学研究科	D2	岩崎 宗将	非ガリウム系材料の中～遠赤外線応答評価および構造物非破壊検査用カメラデバイスの開発
127	新潟大学	自然科学研究科	D3	KANGA CLEVER NKHOKWE	キノコ菌床由来のバイオスティミュラントによるイネのバイオマス・収量増大、品質向上および高温耐性獲得に関する研究
128	豊橋技術科学大学	工学研究科	D1	壬生 龍真	オンサイトで波長情報と光強度を計測可能な半導体光イメージセンサの開発
129	関西大学	理工学研究科	D3	久乗 皓大	創造的問題解決における思考方略振り返り支援システムの開発
130	鳥取大学	連合農学研究科	D3	趙 晶	デジタルコンテンツを用いた森林環境教育の実践と評価
131	岡山大学	環境生命自然科学研究科	D2	香川 龍恭	銀フラクタル樹状構造の成長ダイナミクスの観察
132	長崎大学	総合生産科学研究科	D1	Liu Chunhui	カーボンプライシングが中国の異なる所得階層の炭素支出に与える影響の評価: 電力部門における実証分析

ブース出展企業一覧

1	株式会社アカリク / ジョブ型研究インターンシップ推進協議会	2	AGC株式会社	3	Aero Edge株式会社
4	塩野義製薬株式会社	5	株式会社島津製作所	6	大和証券株式会社
7	Beyond Next Ventures株式会社	8	富士通株式会社	9	ランドブレイン株式会社
10	株式会社リバネス	11	文部科学省	12	科学技術振興機構

ポスター・企業ブースMAP(2 階 中会議場)



博士を大事にする企業ピッチコンテスト参加企業

各企業が「博士を大事にする取組」を発表し、参加者投票で最優秀企業を決定します。

(五十音順)



HITACHI

 **Beyond Next Ventures**

FUJITSU

MIZUHO



企業ブース出展企業

(五十音順)



Coop-j Consortium

AGC
Your Dreams, Our Challenge



 **SHIMADZU**
Excellence in Science

大和証券
Daiwa Securities

 **Beyond Next Ventures**

FUJITSU

 **ランドブレイン株式会社**

 **Leave a Nest**
The Knowledge Manufacturing Company

未来の博士フェス2025

～知の挑戦者たちへー 未来を拓く博士の力～

2025年9月4日(木)開催
場所:一橋大学一橋講堂
主催:文部科学省(MEXT)
共催:科学技術振興機構(JST)